

群馬県立伊勢崎特別支援学校 学校評価一覧表(令和7年度版)

(様式)

羅針盤			関係する 分掌等	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己 評価	外部ア ンケート				
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	○ 学校からのおとりや連絡帳等から「学校の様子がよく分かる」と80以上の保護者が答えている。	小学部主事 中学部主事 事務係	○ 各種通信(学校・学部・学級)、各種便り(保通・進路)、学校ホームページ等で学校の様子を発信したり、連絡帳、電話、SNS等で保護者と丁寧なやりとりを行っている。	A	A	A	○ 回答のあったアンケートでは学校の様子がよく分かるという点で80%を超えた。SNSの活用も浸透してきた。	○ 先生方の親身な対応で、子どもができた時の感動は大きい。SNSでの発信も含め、伊勢崎特別支援学校に伝わって良かった。	○ SNSの活用が広がる中で、セキュリティ(面について)意識を高め、より一層、丁寧かつ迅速に情報発信していく。
		○ 80%以上の保護者が学校行事やPTA活動等に参加している。	渉外部 PTA係	○ PTA実行委員会等で保護者の意見を吸い上げ、学校行事やPTA活動等への参加の仕方や日程・時間等の改善を行う。	A	A	A	○ 学校行事やPTA活動へ参加しているかという質問に約81%の保護者が「参加している」と回答している。また、このまわりPTA企画や各専門部の活動に多くの保護者が参加できた。		○ 保護者が参加しやすいように、実行委員会や各専門部の計画や日程について早めに知らせる。令和9年度以降のPTA組織については、PTA総会で周知を図る。
2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○ 「個別の教育支援計画」について、学校と保護者との共通理解に基づいて計画を作成するために、教師が保護者のニーズや心情に寄り添う支援を行い、80%の保護者から有用であると評価を得ている。	学習指導部 学習指導係	○ 「個別の教育支援計画」の立案に当たって、個別面談や連絡ノートでのやりとり等を通じて、保護者の思いや意見を丁寧に汲み取り作成する。また、修正する場合には、学年・学部で十分に検討を行い、保護者との共通理解を図る。	A	A	A	○ 約97%の保護者が「そう思う」「とても思う」と回答している。個別面談や連絡ノート等の日々のやりとりを通じて、保護者のニーズや心情に寄り添い、保護者と共通理解に基づいた支援内容を設定して取り組むことができた。		○ 引き続き、保護者と丁寧な情報交換や共有を行うようにする。個別の教育支援計画の書式が変更となるため、教務部等と連携しながら対応を進める。
		○ 居住地校交流について、希望する保護者の80%以上が子どもにとって有用であると感じている。	渉外部 交流係	○ 相手校と事前に情報交換をし、交流のポイントについて十分な打ち合わせをする。その内容を保護者へ伝えたと実施し、事後は、成果等を相手校や保護者と共有する。	A	A	A	○ 居住地校交流に参加した約85%の保護者が、子どもが授業に進んで参加したり、相手校の友だちとの関わりを楽しんだりできたという質問に対して「できた」「たいしてできた」と回答した。		○ 交流内容だけでなく、個人情報の扱いや参観の仕方についても保護者と事前に確認する。
Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	○ 地域の幼保小中学校や保護者に対する相談を、年間200件以上受けている。	地域支援部 地域支援係	○ 保健師や心理士等専門家と連携して対応し、的確な実態把握に基づいて、お父さんや先生方のニーズに添った支援方法を提案する。	B		B	○ 未就学児の相談では保健師に同行を依頼し一線に相談・相談を行った。外部専門家派遣も有効に活用し、各専門性生かした支援に努めた。12月末時点相談件179案件、1月以降相談予定案件14件。	○ 学校が持つスキルを伊勢崎市内の学校現場にフィードバックする場を設けていきたい。	○ サポートの内容が相談者のニーズと合わなかった。サポート事業が浸透していない等を感じた。一方で、研修の機会が増え幼保小中の支援の力が上がった。他に相談できる機関が増えたこと等、地域力の充実もあると考えられる。
		○ 地域の幼保小中学校への情報発信として、地域支援だよりを半期に1回以上発行している。	地域支援部 地域支援係	○ 訪問相談等の機会を通して、幼保小中学校の課題を把握し、地域のニーズに添った情報提供ができるようにする。	A		A	○ 今年度は群馬県特別支援教育総合推進事業研修があり、インクルージョン教育の研修を行ったことなどを地域に発信することができた。地域のニーズに添った内容となった。		○ 地域の幼保小中学校の課題を吸い上げ、相談業務の他に、地域支援だり等を通して必要な情報を発信できるようにする。
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○ 個別の指導計画の立案・評価について、児童生徒の実態に応じた指導を実施できるよう、学年・学部での共通理解と検討を年3回行っている。	学習指導部 学習指導係	○ 適切な実態把握をもとに、学年・学部での共通理解を回り、前期・後期の目標や評価が適切かどうか(見直しを)、「やってみよう」「わかった」でできたが実感できる授業等)検討を行う。	A	A	A			○ 適切な実態把握や目標設定、評価が行えるように、引き続き、学年や学部間で検討や見直しを行い、学校状況に応じた授業改善を図っていくようにする。
		○ 希望参加制の研修に70%以上の職員が1回以上参加している。	研修部 校内研修係	○ アンケートや直接対話を通して、職員のニーズや今後必要になると予想されるスキルに関する研修を行う。	B		B	○ 希望研修である夏季相互研修、Itaku Fes.のどちらかに参加した職員は44名で、約70%となった。ただし、一人の職員が1回以上参加している職員も多かった。		○ 校内研修の回数を減らすことが求められるため、希望研修で職員のニーズに合わせた研修を企画できるのではないかと考えている。研修内容を再考し、研修部の負担が少な、しかし効果的な研修を再考していく必要がある。
5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	○ 児童生徒が「やってみよう」「わかった」でできた実感できる授業を振り返り、「個別の指導計画」に掲げた目標の80%以上を達成している。	学習指導部 学習指導係	○ 適切な実態把握をもとに、指導内容や目標を設定する。また、児童生徒の学習状況をもとに指導内容や手立て等に寄り添い、必要に応じて複数の目で検討し、授業改善を図る。	A	A	A	○ 約98%の保護者が「そう思う」「とても思う」と回答している。実態に応じた指導内容や手立て等の上で授業を行い、個別の指導計画の目標を概ね達成することができた。	○ 行事の中で役割を持ち、自主性を身に付けている。自立と社会参加を目指した教育を継続してほしい。	○ 学級や学年間等の学習集団での児童生徒の実態に関する情報共有や授業検討を通して、指導と評価をつなげた授業づくりや授業改善を一層図っていくようにする。
		○ 児童生徒が「やってみよう」「わかった」でできた実感できる授業を振り返り、「個別の指導計画」に掲げた目標の80%以上を達成している。	学習指導部 学習指導係	○ 適切な実態把握をもとに、指導内容や目標を設定する。また、児童生徒の学習状況をもとに指導内容や手立て等に寄り添い、必要に応じて複数の目で検討し、授業改善を図る。	A	A	A	○ 約98%の保護者が「そう思う」「とても思う」と回答している。実態に応じた指導内容や手立て等の上で授業を行い、個別の指導計画の目標を概ね達成することができた。	○ 行事の中で役割を持ち、自主性を身に付けている。自立と社会参加を目指した教育を継続してほしい。	○ 学級や学年間等の学習集団での児童生徒の実態に関する情報共有や授業検討を通して、指導と評価をつなげた授業改善を一層図っていくようにする。
Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○ 日々の学校生活における健康に関する配慮や対応について、80%以上の保護者が適切に行われていると回答している。	保健部 保健係	○ 怪我や体調不良等への対応、保護者への報告については養護教諭や管理職に確認、相談の上、行うようにする。	A	A	A	○ 「連絡ノート」にて体調について保護者と情報共有したり、「ほけんだり」等を活用し、感染症等に関する情報を保護者に周知したりすることで、健康に関する意識の向上を図る。	○ 学校評価アンケートでは「連絡ノート」での健康に関する情報交換について82.2%の保護者が「満足」「いい」と回答している。日々の体調管理についても、担任が養護教諭や管理職と相談・連携しながら、必要であれば保護者に相談するなど細やかな配慮ができた。	○ 今後も児童生徒の健康管理について、養護教諭や管理職との連携を学校として徹底していくこと、連絡ノートを含む保護者へのきめ細かい配慮ができるようにしていく。
		○ 引き渡し訓練では、工事の進捗状況に応じた対応をしながら、引き渡しマニュアルをもとにした確実な引き渡し方法について、学校と保護者で共通理解を回り、実施することができている。	安全部 防災係	○ 引き渡し訓練では、工事の進捗状況に応じた対応をしながら、引き渡しマニュアルをもとにした確実な引き渡し方法について、学校と保護者で共通理解を回り、実施することができている。	A	A	A	○ アンケートの結果より、訓練に参加した人で、手帳の理解ができた「いい」と回答した人は、保護者が98.2%、職員が100%だった。		○ 新校舎への引っ越し後、職員間で避難訓練を実施し、反省を9月の避難訓練にいかす。新校舎での避難経路、有事の際の安全確保等職員間で共有する。
7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	○ 避難訓練、引き渡し訓練、不審者対策の研修を計画し、訓練や研修を通して、90%以上の職員が児童生徒の避難誘導など各自の役割を理解している。	安全部 防災係	○ PDCAサイクルを機能させた避難訓練を実施し、児童生徒の実態に即した訓練の充実を図る。職員一人一人が危機管理意識を持って、訓練後のアンケートを実施する。	A	A	A	○ アンケートの結果より、100%の職員ができた「いい」と回答した。		○ 職員が自分で考え動ける避難訓練を行い、明らかになった課題に対応し、計画に反映させていく。不測の事態に対応できるように、職員一人一人の意識を高めていく。工事の影響で避難経路などに変更が出た場合は、早急に対応する。
		○ 救急搬送訓練や心臓蘇生法等の訓練を年間各1回以上実施している。	保健部 保健係	○ 救急搬送マニュアルの見直し改善を行った。訓練の実施後にアンケートを実施したことで、職員一人一人が危機管理意識をもてるようにする。	A	A	A	○ 今年度は9割以上の教員が心臓蘇生法の訓練を受講することができた。救急搬送訓練については各学年毎に1回以上実施しており、100%の職員が救急搬送訓練改善点の共有について「できた」「いい」と回答している。		○ 次年度以降は学部ごとに隔年で心臓蘇生法の訓練を受講していく。どの教員でも対応できる体制作りを継続していく。救急搬送訓練では、どの校舎であっても対応できるように実施する必要があるため、マニュアルの更新や掲示方法について周知していく。
8 いじめのない学校作りに取り組んでいますか。	8 いじめのない学校作りに取り組んでいますか。	○ 保護者の90%以上が、学校がいじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組んでいると答えている。	生徒指導部 生徒指導係	○ 年度当初の児童生徒紹介を始め、隔月ごとのいじめ対策委員会や各学年の様子を報告し、情報の共有を図る。児童生徒の人権を尊重し、自己有用感を高める支援を行うことで、児童生徒の心理的安定を図り、いじめを防ぐ。	A	A	A	○ 保護者アンケートでは、第1回「はい」と思う52.6%、「ややそう思う」44.8%で合計97.4%。第2回では「ややそう思う」42.6%、「ややそう思う」54.4%で合計97.4%だった。		○ いじめ対策委員会が児童生徒情報の共有を丁寧に行い、組織的な対応を徹底する。
		○ 「進路だより」の中で本校のキャリア教育について発信し、キャリアパスポートを前期、後期で2回作成している。	進路指導部 キャリア教育係	○ 「進路だより」の中で本校のキャリア教育について周知し、理解と協力を得ながらキャリアパスポートを前期、後期で2回作成し、指導内容を整理しながら個に応じた系統的なキャリア教育を進める。	A	A	A	○ 前期・後期の2回キャリアパスポートの作成と振り返りを行うことができた。保護者アンケートでは97.4%。職員アンケートでは86.1%が「ややそう思う」と回答している。	○ 自分が何かを学ぶ経験をとくさんさせてほしい。それが大人になってからの安心した生活に繋がる。	○ 進路便の中で、キャリア教育について周知し、また、キャリアパスポートについてさらに活用しやすいものができるよう、検討を始める。
Ⅴ 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○ 進路指導に関する行事を年5回以上実施している。	進路指導部 キャリア教育係	○ 福祉サービス事業所における現場実習や外部講師による進路選択の心を高める授業や保護者向けの講演会、本人と保護者と担任による進路相談会等を行う。	A	A	A	○ 中3年現場実習や中1、2年校内実習を行った。職員向けの校内研修や外部講師による講演会などを行った。中3生対象の進路学習や、中1、2年対象の進路相談会も実施した。		○ 高等部設置を控え、行事の中で卒業後に必要な福祉サービスや高等部の進路選択など、後う内容を工夫し、周知を図る。
		○ 本校保護者及び地域の関係者に向けての情報発信として、「進路だより」を年5回以上発行している。	進路指導部 キャリア教育係	○ 校内の進路指導の様子や受検に係わる情報、地域の協議会等で得た情報や動向、本校のキャリア教育に関する情報の発信を行う。	A	A	A	○ 保護者アンケートでは第1回が98.3%、第2回が97.4%が「ややそう思う」大体「ややそう思う」と回答している。		○ 高等部設置を控え、キャリア教育、進路情報などの発信内容をより高等部卒業後の生活を見据えたものを増やしていく。